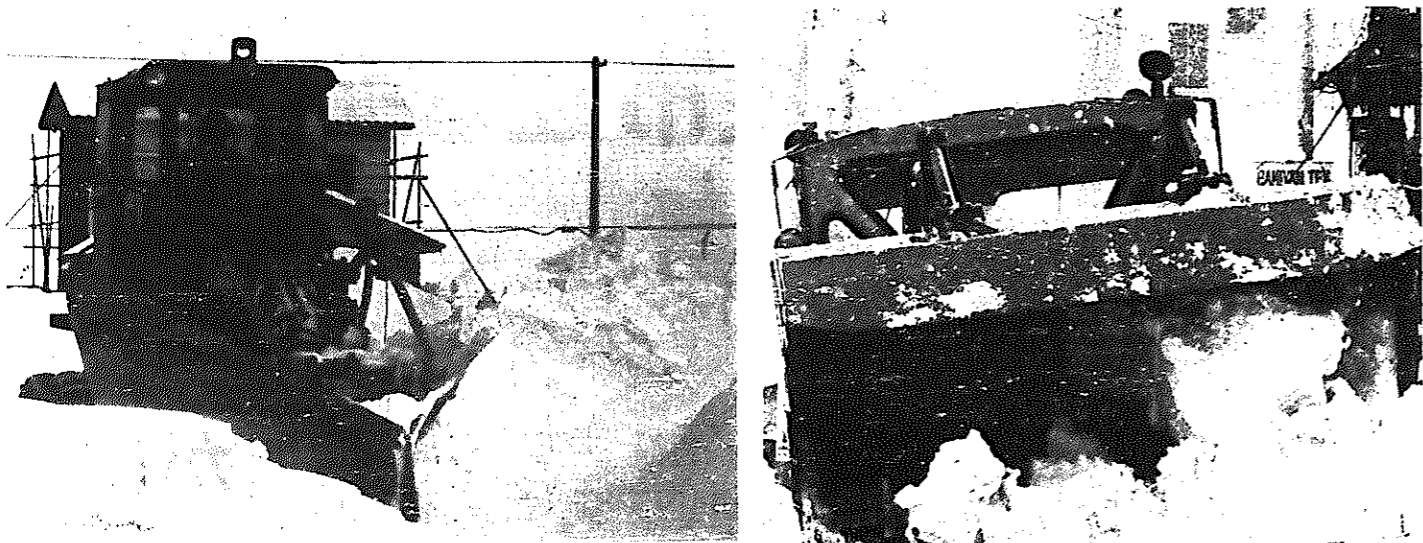




◇人口の動き 2月1日現在 人口 3,2968人 前月比 -3人 (男 16,035人 女 16,933人) 世帯 7,187



もうたぐさくさくさ うよだん

しつこい……そんな感じのドカ雪です。最高積雪量をみれば百三センチと、昭和四十四年の百三十センチよりは少ないですが、根気強く降り続くのには、いささかうんざりさせられます。

市では除雪対策本部を設け、生活道路の確保に全力投球。昨年暮れの二十七日から二月十五日までに延べ六百六十台の除雪機を投入。担当員は、正月も日曜日も返上し、早朝から夜おそくまでがんばり続けてきました。その除雪距離は約一万七千キロ。新潟—京都間を約二十九回も走破！

しかしながら、当初予定していた除雪費約千五百万円もすでに底をつき、保護世帯、公共建物などの除雪費をふくめると、三千万円をこえる見込み……。春になれば溶ける雪「この金が建設費だったらなア」と、ある人がいったことが耳に残ります。



クラブ登場

奉仕活動を通じ 国際交流も

白根ローター
アクトクラブ

「自分のため、地域社会のため、世界のため」という、大きな目標をかかげ、奉仕活動を続けているユニークな若者のグループがあります。

このクラブは、白根ローターアクトクラブ(須田俊明会長、会員十一人)。ちょっと聞きなれない名ですが、ロータリークラブとは親子関係で、国際的な組織機構をもつデッカイもの。それだけに、国内はもちろんのこと世界各国のアクト会員との交流もさかんです。

昨年の六月、ロータリークラブの招きで、アメリカの学生が本市を訪れたときも、身ぶり手

ぶりで大奮闘。風を紹介したり一緒に歌うなど、涙ぐましい努力——そのかいあって会員の語学力も上達したそう。

でも、彼らの気持には、けっしてヘデさはありません。国道の空カン拾いやカープミラーの清掃など、人のいやがる奉仕活動にも積極的に取り組んでいます。

「もともとって地域社会の役に立ちたい、そのためには、



■国道のゴミノ、トラックにいっぱいありました——ロータリークラブと共同作業



市民文芸

ハ川柳▽白根川柳文芸会

カマクラに餅焼く匂いにババも来る 成田吉子
つつがなき年にと子どもにも御神酒 渡辺幸平
初詣でスルメとスルメがからみ合い 保科盛広
二百カイルリ魚ジグザグ生き残り 中村尚治
若い娘は冬着つけても線は夏振り袖もブーツに押さる初詣で 本間吾郎
拙筆にこもる年詞を読み返す 大井義雄
寝言まで喧嘩している倦怠期 吉川 彰
平和台悪魔の宝くじを売り 米野光雄
除雪車の地響き寝正月掃すり 吉川末吉
かくれんぼの孫にヘンクリ見つけられ 後藤まさの
逃げ道を残して叱る太い腹 塩田英司
カレンダー貰う物だときめてあり 岡村 清
おのがミス子供にさせて叱りつけ 広野仁一

ハ俳句▽庄瀬俳壇

節くれの太き手を打ち初詣で 中山義英
朝ごとに雪新しく冬長し 石田豊一
屋根の雪層をつくりてくつろがず 西山静江
はだか木にまぶしき旭あり雪も春 川又三郎
一の宮ここから参道雪を踏む 須戸義夫
寒燗焦げて客待つ厨あわただし 針貝静男
輝らっ輝らっと星が生きてる冬の湖 桜井裕子
春光や精一杯の窓あけて 桑原溪月
新春の骨だけ吊し雪深し 田中昭一
病む妻に一人きびし寒の咳 石田豊実
炬燵にて愚痴聞き聞かず温たかさ 西山了空

固定資産課税台帳の縦覧 3月1日～22日午前8時30分～5時(ただし土曜日は正午まで。祝日、日曜日は除く) 市役所2階税務課